

巣検出能と病巣の部位と広がりの評価に対する比較検討を行った。

対象は18例の心筋梗塞患者で、安静時に24 mCiの $^{201}\text{Tl}$ を静注し10分から20分以内にECTを撮影し、検査は1時間以内に終了した。

18例中5例で $\gamma$ -カメラ像が正常と判定されたが、内2例はECTでも正常であり、1例は疑診、2例では明らかな前壁の欠損を示した。18例中4例では、 $\gamma$ -カメラ像で1方向だけで小さなlow activityを示す所見が得られたがいずれも心筋梗塞とは診断しえなかった。

4例中3例ではLAO 30°あるいは60°で前壁中隔部に小さなlow activityを認めたのみであったが、ECT像ではいずれも前壁の欠損と中隔壁全体のlow activityを示した。

$\gamma$ -カメラ像で明らかな欠損を示した9例では、下壁梗塞の1例を除いて全例でECT像でも欠損を描出でき、水平方向の広がりについてより広範に描出された。

## 26. Phadebas Angiotensin I Test による血漿レニン活性の測定

浅野 智子 江尻 和隆 沢田 武司  
河合 恭嗣 (名古屋保健衛生大学病院・放)

スウェーデンのPharmacia社より開発された、Angiotensin I Test SD-8541の基礎的検討を行った。

本キットは、B.F分離にチャコールデキストランを使用したもので、測定操作は、1日で完了する。Intra assayは、7.3~15.9%、Inter assayは、12.1~15.8%、回収率は、86.8~110.0%であった。またアンギオテンシンIの産生時間は、1時間が適当であり、産生温度は、36~38°Cまでは、大差がなかった。ダイナボット社、レニンリアキットとの相関は、 $y = 0.74X + 0.045$ 、相関係数は0.923となり、Phadebasのキットの方が、高めであった。

## 27. ヒト血清 Transcortin の radioimmunoassay

末田 香里 小川 克仁 岡崎昭太郎  
松井 信夫 (名大・環境医学研究所)

血中のコルチゾール結合蛋白である transcortin (Tr) 濃度は従来 Tr の結合部位をコルチゾールで飽和させ、

このコルチゾールを測定することにより算出されている。今回 Tr を直接定量することを目的として Tr の radioimmunoassay (RIA) を検討した。

(実験方法) ① Tr の精製：ヒトプール血清より硫酸分画、アフィニティークロマトグラフィー、ハイドロキシアパタイトクロマトグラフィー、ウルトラゲルクロマトグラフィーにより Tr を精製した。② 抗体の作成：アフィニティークロマトグラフィーまで分離した Tr 粗標品を用いて、家兎を免疫した。③ 標識 Tr の作成：クロミン T 法により、Tr をヨード化した後セファデックス G-25, G-100 を用いて精製した。

(結果) ① 抗血清  $10^5$  倍希釈で1~100 ng の範囲の Tr の検量曲線が得られた。② コルチゾールは血清濃度の1000倍、アルブミンは血清濃度の10倍まで添加しても測定値に影響しなかった。③ 試料の希釈曲線は検量曲線に平行であり、between assay, within assay の変異係数はそれぞれ6.0~10.6%、3.4~8.4%であった。④ コルチゾール結合能より測定して得た値と今回 RI で得た値の相関係数は0.9329であった。⑤ 本法による血清 Tr 濃度は、正常成人で  $65.5 \pm 15.3 \mu\text{g/ml}$  (mean  $\pm$  SD,  $n = 73$ ) であり、妊婦では  $136.8 \pm 60.0 \mu\text{g/ml}$  (mean  $\pm$  SD,  $n = 15$ ) と妊娠により顕著な増加が認められた。以上本法は微量測定が可能で、精度並びに再現性もよく、一度に多数の検体を処理することができる良好な測定系である。

## 28. 癌の Screening test としての $\beta_2$ -microglobulin 測定

真坂美智子 吉見 輝也 (浜松医大・2内)  
道家 義和 金子 昌子 (同・放)

血中  $\beta_2$ -microglobulin 値は、糸球体濾過値をよく反映するため、腎機能検査として汎用されているが、種々の悪性腫瘍での上昇例も報告されている。今回、癌 Screening test としての有用性について検討を試みたので報告する。

測定には  $\beta_2$ -マイクロテスト・シオノギを用い、CEA はダイナボット法により測定した。

測定対象は、浜松医大に勤務する職員の定期健診受診者の中から無作為に男性21例、女性17例を抽出して測定して対象群とした。悪性腫瘍群については、第2内科入院中の症例及び、核医学検査室に CEA の測定依頼のあった症例から抽出した。正常値は、男性が  $1.25 \pm 0.22 \text{ mg/l}$ 、